

# 国 語

## ■ 解 答 ■

- ① (1) いせい (2) と (かす)  
 (3) さつえい (4) となり  
 (5) う (める)
- ② (1) 警笛 (2) 縮尺 (3) 処置  
 (4) 導 (く) (5) 築 (く)
- ③ [問1] エ [問2] ウ [問3] イ  
 [問4] ア [問5] エ
- ④ [問1] エ [問2] ウ [問3] イ  
 [問4] ア [問5] (作文解説参照)
- ⑤ [問1] イ [問2] ウ [問3] ア  
 [問4] イ [問5] エ

## ■ 配 点 ■

- ①(1)~(5) 各2点 ②(1)~(5) 各2点  
 ③[問1]~[問5] 各5点  
 ④[問1]~[問4] 各5点 [問5] 10点  
 ⑤[問1]~[問5] 各5点

## ■ 解 説 ■

### ③ 文学的文章の読解

[問1] 「いつもどおり」を三回も繰り返しているのは、実際には「いつもどおり」でないからと考えられる。決断を迫られた状況で、いつもどおりにふるまい自然な気持ちにしたがおうと自分に言い聞かせているのは、そうしなければ答えを出せないからである。

[問2] 田村は台所に立つ母親を見て驚いたのち、最近の両親の様子を思い起こし、自分を<sup>きづか</sup>気遣って気丈に振る舞ってくれたことに気づいていく。「それで……お弁当まで?」「そんな、わざわざつくらなくても……」の「……」からは、声にならない思いが読み取れる。

[問3] あとに述べられている「子どもの頃のように声をあげて泣きだしてしまいそうだった」という田村の心情に着目する。田村は、元気な頃のように振る舞ってみせる両親の様子に胸を打たれているのである。

[問4] 父にとって原爆ドームは、困難を乗り越えてきたことを象徴するものである。その原爆ドームを見つめていることから父の決意を読み取る。

[問5] 「また眉間に皺を寄せ」とある。前の部分で田村が「眉間に皺を寄せ」たのは、「泣きだしてしまいそうだった」から。このときも、息子である自分のために「親の務め」を果たそうとする両親の思いを感じて、泣きだしそうなるのをこらえていたのである。

### ④ 説明的文章の読解

[問1] このあと、富士山がどのような評価によって世界遺産に登録されたのか、富士山にどのような来歴があるかを詳しく説明していることから考える。

[問2] 第七段以降、富士山に関する説明に終始してい

たが、この段落からは前段で触れた曼荼羅図の中で山が三分割されていることから、「山頂」「山腹」「山麓」という言葉とそこにある山についての「大事な意味」の話を展開し始めている。

[問3] 直前で「現在は、それを知る人も……語る機会も少ない」と述べたあとで、「そして」とつないで荒れてきたことを書いているので、登山者に限らず、一般的に「それ」が知られなくなったことを理由と考えているとわかる。「それ」の内容は山を神々の領域と考える思想である。

[問4] 直後に述べられた、「日本人だけの無形文化遺産でなく」「しかと世界に伝承を約した」という表現に、山をしっかりと守るべきだという筆者の気持ちが込められている。

### ⑤ 古典を含む文章の読解

[問2] 直前の「見送りをする」と古文の「送りす」の相似に着目して、傍線部と対応する部分を探そう。

[問3] 傍線部のあとで、当時は男性が公的なものを漢文で、女性は私的なものを仮名文で表現したことを説明し、女性を書き手と設定することで「(公的な)制約をはなれて書くことができた」と考察している。

[問4] 直後に「やはり公的な性格——つまり男性性を、おおいに有していた」とあることから、問題は文章が「公的」か「私的」かということだといえる。

[問5] 傍線部の直前の「普遍的」は、すべてに共通するという意味。『土佐日記』の女性仮託に込められた思いは、現代の人間にも共通するものだとして述べている。

## ■ 作文解説 ■

◆ 筆者の主張と自分の体験の共通点や相違点を示して、意見に結びつける。

◆ 事実と意見を区別して書く。自分の体験・見聞といった事実は「〜しました」など、意見は「〜と考えます」「〜ではないでしょうか」など、文末表現に注意。

持	実	拾	想	あ	筆	め	り	落	山
ち	際	った	が	つ	者	ない	ま	ち	登
を	に	の	私	た	は	の	し	て	り
呼	山	で	の	と	、	に	た	。	を
び	に	し	心	述	日	、	道	。道	し
起	登	よ	の	べ	本	不	端	。道	た
す	り	う	奥	て	人	思	に	。道	と
こ	、	。富	にあ	い	に	議	落	。道	き
す	自	士	つ	ま	は	だ	ち	。道	、
こ	分	山	た	す	は	な	な	。道	静
が	の	を	か	。今	は	と	な	。道	か
大	中	守	ら	考	御	思	な	。道	で
切	で	る	山	え	山	い	な	。道	き
だ	眠	た	中	る	を	。道	な	。道	れ
と	の	め	で	に	拝	。道	な	。道	い
思	敬	に	ご	は	借	。道	な	。道	な
い	う	は	み	の	す	。道	な	。道	な
ま	を	は	は	思	る	。道	な	。道	な
す	。気	を	が	。道	思	。道	な	。道	な